

## 子育てタク登録促進プロジェクト

## PV制作やSNS活用を

横浜商科大学の学生が「子育てタクシーの利用登録者数を増やすプロジェクト」の発表を1月21日、横浜市の東宝タクシー（大野慶太社長）で行った。男子学生5人は「業界のイメージアップが必要」とし、プロモーションビデオ制作、ツイッターなどSNS（ソーシャルネットワークワークス）の活用と改善、顧客との交流会の開催を提案した。

プロジェクトは、同大学商学部観光マネジメント学科の田尻慎太郎専任講師の企業連携授業を専攻する学

## 横浜商科大生が東宝タクで発表



生が主体。同授業での子育てタク向けに、昨年11月から開いてNPOと大学の交流をき始した。大学の地元にある東宝タクと連携し、子育てタク登録者数を4600人から5千人に増やすことをミッションとし、子育て支援NPOの「子育て広場」や東宝タク訪問で、ヒアリング調査を行ってきた。

発表では、プロモーションビデオ(PV)について、スマートフォン<sup>1</sup>の無料アプリによる写真やBGMを素材とした作り方を説明。SNSの活用では、短文投稿サイト「ツイッター」で「写真を多く使ったツイートの頻度を高め、フォロワーを増やすことが鍵」とし、田尻専任講師は「大学は変わってきており、実践的な課題をもとに学ぶことが重要」と話し、「企業は社会的責任(CSR)から価値の競争(CSV)を求められており、時代と共に変わりつつある。子育てタクもCSV」と指摘した。

発表後の講評で大野社長は「具体的な提案でびっくりするくらい。アイデアは百点満点。提案を実践すれば、5千件は実現が可能ではないか」と評価した。

東宝タクシーと連携して横浜商科大学の男子学生5人がプレゼンをした。右は大野社長（東宝タクシー社内）